

2017年12月8日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 升本 潔

Bangladesh国ダッカ都市交通整備事業（1号線及び5号線）
（協力準備調査（有償））
ドラフトファイナルレポート案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年11月24日（金）14：01-16：11
- ・場所：JICA 本部（2階 212 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、谷本委員、升本委員
- ・議題：標題事業に係るドラフトファイナルレポート案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) Bangladesh国ダッカ都市交通整備事業（1号線及び5号線）（協力準備調査（有償））
DFR・ジェンダーアクションプラン（Annex 8）
 - 2) スコーピング案への助言対応表
 - 3) EIA 報告書ドラフト
 - 4) 住民移転計画ドラフト
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第86回委員会）

- ・日時：2017年12月8日（金）14:30～17:30
- ・場所：JICA 本部（1階 111・112 連結会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

環境配慮

1. ベンガルオオトカゲの動態を含め、車両基地周辺の動植物の状況に著しい変化がないかどうかの確認を目的とし、EIA 調査でリストアップされた動物種（哺乳類、鳥類、爬虫類、両性類）及び植物種のモニタリングを工事中及び供用時において行うこと。
2. 1号線及び5号線ともに、車両基地並びに街路における伐採対象の樹木の調査が詳細設計時に行われることを、さらに、その結果に基づき代償植林を含む緩和策が検討されることをFRに記述すること。
3. ダッカで取水されている水の砒素濃度はゼロに近いものとなっているが、モニタリング等で安全な飲料水確保を確認しながら監視を継続すること。
4. 本事業の累積的影響は工事期間中のみならず、供用時の影響も勘案しFRに記載すること。

社会配慮

5. 本体借款のゼネラルコンサルタントの作業の中で、洪水・サイクロンへの備えについては、駅の利用者への広報、周知、実際に洪水・サイクロンが発生した際の避難誘導、そのためのスタッフ訓練ならびに予算確保の計画を行うことが必要であり、それらのことをFRに記述すること。
6. 実施機関との協議により、供用時の駅のコンコース等において、絵文字などでの避難路指示や一般利用者への安全啓発活動について実施に努めること。
7. 実施機関の環境社会配慮等の運営維持管理能力向上について、JICA の過去の知見を活かした支援に努めること。

以上